

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 4日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2872000845 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 弘成会 | | |
| 事業所名 | ライフ明海グループホーム | | |
| 所在地 | 兵庫県明石市藤江205 - 3 (電話) 078 - 925 - 2005 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構 | | |
| 所在地 | 兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年 6月26日 | 評価確定日 | 平成20年 8月 4日 |

【情報提供票より】(平成20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------------------------|-----|
| 開設年月日 | 昭和・平成 13年 4月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 8 人、非常勤 1 人、常勤換算 7.4人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|---------|
| 建物構造 | 鉄骨被覆 | 造り |
| | 1 階建ての | ~ 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|------------------|------------|-----------|---|
| 家賃(平均月額) | 月額1,200 円 | その他の経費(月額) | 約45,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,700 円 | | | |

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 9 名 |
| 要介護 1 | 8 | 要介護 2 | 0 | | |
| 要介護 3 | 1 | 要介護 4 | 0 | | |
| 要介護 5 | 0 | 要支援 2 | | | |
| 年齢 | 平均 89.1 歳 | 最低 | 84 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人社団 弘成会 明海病院 |
|---------|-----------------|

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

明石市郊外の海岸沿いの住宅街の中に建ち、病院と老人保健施設に併設したグループホームである。JR西明石駅から国道からも交通の便が良い立地条件である。ホームの玄関の目前には瀬戸内海が広がり、散歩道や公園があり、左方奥には明石大橋が臨める。ホームの中は落ち着いた雰囲気、職員の穏やかな対応で入居者のペースを大切にしながら持てる力を発揮できるようなケアに取り組まれている。医療との連携が十分図られており、地域の中で安心して暮らせるよう支援されている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 前々回の評価で改善課題として取り組まれた記録について、介護計画などの充実を継続して実施されており、サービス内容など分かりやすく表現され見直しも出来ている。前回からは、理念に地域との交流を重視する内容を加えられ、サービスにも取り組まれている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 管理者が中心となり自己評価に取り組まれ、職員とも意見交換を行いながら、業務の振り返りが行われている。毎日の変わらない生活の中で、一つひとつのケアについて、原点に戻り確認しながら、振り返る機会として捉えている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヵ月に1回の頻度で、ボランティアグループの代表者や家族・職員・法人理事などが参加し開催されている。会議では、グループホームでの取り組みの報告をはじめ、第三者評価の受審について意見交換したり、認知症・感染症などについての講義などの学習の機会にもなっており、グループホームや認知症の理解を深める場となっている。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 月に1回、受診の状況や生活の様子を記載した報告書で知らせ、面会時に変化や様子を詳しく話すようにしている。ほとんどの御家族が支払い時に来訪されるため、ゆっくり希望や思い・意見を伺うようにしている。意見については、ミーティングで話し合ったり、納得いくまで話し合ったりしている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 隣接する小学校の運動会や作品展・地域の敬老会への参加を、家族とともに支援したりしている。法人全体で実施する夏祭りや地域の人の交流を図ったり、ボランティアグループの訪問を受け入れ、ホーム内でも入居者と地域の人とが楽しめる交流の場を作っている。 |

2. 第三者評価結果票

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | グループホームの理念として、普通の生活、出来ることをする、地域との行事や馴染みの人々とのふれあい、笑いとお楽しみのある生活と分かりやすい表現で掲げており、地域に根ざすサービスとして理念を修正され、その実現へ取り組まれている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 日々の生活を共にしながら支援する中で、入居者が在宅からの延長として共同生活を営めるように、個々に合わせて声掛け・見守りを行いながら、出来ることを続け、楽しい毎日が送れるように支援している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣接の小学校の運動会や作品展・地域の敬老会等への参加などを、家族の協力を得ながら支援している。また、地元のボランティアグループの訪問も受け入れ、ギター演奏・ハンドベル演奏・手話・マジックなど入居者が楽しめる交流を図っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義について、職員間で話し合う機会を持ちながら、自己評価については管理者が中心となり、職員の意見も取り入れながら取り組まれている。日々の生活が大きく変化するものではないが、評価を実施することで原点に戻り、確認しながら振り返る機会と捉えている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | 2ヶ月に1回の頻度で、ボランティアグループの代表者や家族・職員・法人の理事・介護老人保健施設の施設長などを構成員として開催している。会議では、グループホームとしての取り組みの報告をはじめ、評価の受審についてや他機関との連携や認知症・感染症などについての講義などの学習の場にもなり、徐々にホームへの理解が深まっている。 | | |
| 6 | 9 | <p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | 運営推進会議へは、市や地域包括支援センターにも参加をお願いしているが、未だ実現には至っていない。明石市の通所リハビリでの協議会などに理事が参加され、情報の共有に務めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | 毎月報告書にて、受診の状況や、生活の様子や変化などをわかりやすく記載し、面会時に説明を加えながら報告している。また、預かり金の明細書や領収書などを定期的に渡したり、職員の異動に対しては面会時に口頭で伝えるようにしている。 | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 運営推進会議の中で参加されている家族から、心配事や意見などの問い合わせを受けたり、面会時の会話の中でいろいろな意見を聴かせてもらい、必要に応じてミーティングで話し合ったり検討したりしている。 | | |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 職員の希望も聞きながら、同法人内の介護老人保健施設からの異動が殆どで、認知症のケアや日常生活の支援に対応できる職員の異動が行われている。異動は一人ずつに配慮され、入居者とは馴染みの関係になるまで複数でケアにあたり、混乱のないように対応している。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|---------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>県で行われる認知症研修に対しては、職員が全員受講できるように、順番に申込み、研修を受ける機会を設けている。また、法人内で定期的に行われる研修については、日勤勤務者が参加し、資料を回覧している。</p> | | <p>法人内の「口腔ケア」「褥創」「救急法」などの研修に加えて、認知症のケアについて等の研修も受ける機会を提供したり、段階に応じた育成のための研修の計画を立てることなどを検討してほしい。</p> |
| 11 | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>グループホームの連絡協議会はないが、通所リハビリのサービス事業所連絡会に、運営者が参加し、新設されるホームを知ったりするが、直接管理者や職員が同業者と交流する機会はなく、実現には困難を感じている。</p> | | <p>職員は同法人内での異動が多いことから、他の同業者との交流を図ったり、ネットワーク作りをすることで、ケアの気付きやサービスの質の向上を図って欲しい。</p> |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>入居前に家族と一緒に見学してもらったり、レクリエーションに参加する中で、雰囲気を感じてもらおう配慮をしている。また、入所にあたっては、1週間ほどの慣らし入居を実施し、徐々に馴染み、安心して入居できる支援をしている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>入居者との日常生活のいろいろな場面において、職員と一緒に取り組み、野菜作りや料理・七夕のこより作りなど多くの面で教えて頂く事や、一緒に考えることが多い。人生の先輩として、学ばせて頂きながら良い関係作りに務めている。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | 一人ひとりの生活歴を本人・家族から聞く事で、その人らしさを知り、遠慮深さや我慢強い面を理解しながら、1対1になれる居室や入浴介助時などに、ゆっくり時間を取り、思いや希望を伺うよう支援している。 | | |
| 2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | 日々の状態をミーティングや申し送りなどで話し合い、共有しながら、現状の維持を希望される家族の思いも聞き、入居者の望む暮らしに向けて課題を把握し、介護計画を作成している。作成した計画書は、本人・家族にも説明し確認されており、サービス内容については分かりやすい表現で記載されている。 | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | 3～4カ月の頻度で介護計画を見直しており、その際には、日頃の様子や変化のモニタリングを総括した上で、新しい介護計画へと作成し直している。また、途中で変化が生じた場合は、専門家の意見を聞きながら、適宜見直している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | 母体が併設する医療機関であり、必要時は昼夜問わず看護師の訪問を受けることができスムーズな対応が得られたり、外来リハビリを継続できたり、医療連携体制が確立している。同法人内の事業での送迎車などが活用でき、入居者と共に買い物ツアーやドライブなど、希望に合わせて外出の支援などができている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望に沿い、入居前からのかかりつけ医を主治医とし、家族の介助で受診し、情報を得ている入居者もいる。母体の医療機関を主治医とする場合の受診については、職員にて送迎し、待ち時間が少ないよう配慮したり、情報交換を密に行い適切な医療が必要時受けられるよう支援されている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時に「看取り介護についての同意書」を使用して説明し確認をしながら、体調の変化時には、その都度主治医・看護師・家族・職員などで、今後の方針や対応について何度も話し合う機会を設けている。実際はグループホームには看護師が配置されていないなどの限界もあり、最期の看取りの経験はなく、隣接の介護老人保健施設や病院に移る事が多い。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者一人ひとりに対して、言葉使いや声のトーンに注意しながら、丁寧にゆっくりと声掛けを行い、尊厳を損ねないよう対応に注意している。また、記録物や個人情報の管理については事務所内で扱うようにし、プライバシーの確保に配慮している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居前に独居の人が多いため、共同生活での負担を強いられないよう、その人の思いやペースを尊重しながら、ゆっくりと対応するように心掛けている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者それぞれの関係性や負担の程度に配慮して、1回/週、木曜日の昼食については、入居者と職員で、買い物・準備・片付けまで一緒に行うようにして、それぞれの役割が果たせるように支援している。他の食事は厨房から配膳された物を食器に盛りつけ、配膳することを一緒に行っている。朝食に関しては、入居者から自発的に準備や盛りつけ・配膳など行ってくれる。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には、2日/週の頻度で曜日を決め、体調や希望に合わせて、順番や曜日の変更を行っている。介助は日中に行い、洗にくい部分の洗身や浴槽への介助以外は出来るだけ自分で行うように声掛けし、希望時は一人でゆっくりつかり、脱衣所で待機する配慮も行っている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 本人や家族から聞いた生活歴や日頃の会話の中から、それぞれの入居者に合った支援(野菜作り・書道・絵・日記など)で、思い思いの楽しみを持ちながら生活出来るよう支援を行っている。また、散歩やドライブ・見学会など、外出への支援で気分転換などの支援も行っている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 海岸に沿った道を、海を見ながらほぼ毎日散歩したり、車で買い物ツアーやドライブなど戸外へ出て楽しめる支援を行っている。また、家族と一緒に外出・外食することも協力頂いている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 夜19時から朝8時の間は、夜間のため施錠するが、それ以外は鍵をかけないケアが行われている。入居者も外出する時は、職員に声をかけることが出来、チャイムなども使用していない。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|--|---------------------|---|
| 27 | 71 | <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> | 火災や地震などの災害に対して、災害対策マニュアル・連絡網などの準備はできており、消火訓練は2回/年の頻度で行っている。しかし、入居者と一緒の避難訓練などはできておらず、不安もある。 | | 今後は災害時を想定して、入居者も一緒に安全に避難できる訓練を実施し、日中や夜間での対応を検討していかれる事を希望する。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | 職員で作成した献立表の栄養バランスやカロリー等については、管理栄養士からアドバイスをもらい支援をしている。また、体調の悪い時は、摂取量などチェックしながら、その人に合った支援ができるよう対応している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | 建物の構造は施設的であるが、ホーム内は静かで清潔である。食堂には季節の花が飾られ、ダイニングは明るく庭の野菜が見え、自由に使える道具が並べられ、それぞれの作りかけの作品などが棚に置かれ、希望に応じて取り組めるように配慮されている。玄関には椅子があり、海を眺めてゆっくり座って過ごせる場所になっている。 | | |
| 30 | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | 入居前に使い慣れていた時計や好みの本・仏壇などが置かれ、絵や作品に加え家族の写真を飾ったりして、安心して過ごせる居室作りが工夫されている。 | | |

 は、重点項目。